

二〇二〇年度、全世界規模の災厄であるコロナ禍（新型コロナウイルス感染症〔COVID-19〕の大流行）は学術の世界にも多大な影響を与え、大学での授業も「対面／リモート」形式の切り替え及び併用といった不安定な実施で落ち着かず、また学会も中止が相次ぐ一方次第にインターネット利用へシフトし、例年とは異なる様相を呈しています。二〇二一年三月現在も、未だ収束の目途は立っていないように思われ、授業の実施形態に不安を感じつつも既に新学期が目前に迫っているのが現状です。

今号、『陽明学』第三十一号は、当初今年度一松学舎大学で開催する予定の陽明学に関する国際シンポジウムでの成果を特集することを計画していました。しかし、冒頭で述べた理由により国際シンポジウムが実施できず（海外から講演者を招聘することが不可能）、また人が集まる行事が敬遠される状況下（所謂「三密」回避の要請）、本誌の内容を充実させることが困難になってしまいました。

幸い、石原伸一氏が論考を投稿くださり、何とか学術雑誌としての体裁を保つことができました。石原氏には深く感謝申し上げます。

また、連載の『朱子語類』、『龍谿王先生全集』各訳注もご覧いただければ幸いです。

どのような状況にあっても、学術の停滞は避けなければなりません。陽明学研究センターでも、不測の事態に対処できる体制づくりを模索する必要を痛感しております。本誌の最後に、論考の投稿要領が掲載されております。諸先生方・大学院生の奮ってのご投稿、お待ちしております。